

Interim Report 2011

eyes

第70期 中間報告書

2011.4.1 ▶ 2011.9.30

ものづくりを通し、
信頼性の高い技術と
品質をお客様に提供し、
豊かな未来を拓いていく

Mamiya-OP

マミヤ・オーピー 株式会社

Top Message

株主の皆さまへ



代表取締役社長

矢崎 登

株主の皆さまにおかれましては、平素よりの格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループは、積極的な事業再構築による事業領域の拡大・深化と新たな中核事業の確立により、卓越した「ものづくり」企業として持続的成長を実現すべく、様々な施策を展開しております。

電子機器事業においては、主力である遊技機関連機器における収益の柱であるOEM製品の強化に加え、紙幣識別機、紙幣搬送システム等、当社独自の技術を駆使した新製品の開発そして新規市場開拓、さらには新たな生産分野の拡充によるメーカーとしての生産能力の強化等、種々の課題に貪欲に取り組んでおります。一方、スポーツ事業においては、部材であるゴルフシャフト主体の従来のビジネスから脱却して完成品主体のゴルフ用品メーカーとしての地位を確立すべく、日本国内におけるカーボンシャフトの開発及び販売に関する事業等を売却し、平成22年11月に連結子会社とした総合ゴルフ用品メーカーであるキャスコ(株)を中核とする新たな事業展開を着実に進めております。

また、グループ内における経営資源の最適配分と有効活用により経営体質を強化すべく、OEM製品の生産を、マミヤ・オーピー・ネクオス(株) (埼玉県さいたま市) とキャスコ(株) 志度工場 (香川県さぬき市) の2拠点で行うこととし、その安定的な生産供給並びに東西2拠点体制によるリスク管理の徹底を図ると共に、カーボンシャフトの生産拠点であるマミヤ・オーピー (バン格拉デシュ) Ltd.においてキャスコ(株)の主力製品のひとつであるゴルフ用グローブを生産することで、そのコスト面で優位性の活用を図っております。

このように、私どもは、新たな構想の下での戦略的な事業展開によって大きな飛躍を果たし、株主の皆さまへの安定した利益還元を継続的に実施すべく、全社員一丸となって業績向上に邁進する所存ですので、これまでも増してのご支援・ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

Our Business

電子機器事業部門一 社会に大きく貢献するエレクトロニクス技術

電子機器事業部門において当社グループは、急速で激しい技術革新と多様化するお客様のニーズ、そして流動的な経済情勢への柔軟かつ果敢な対応が求められる今日の市場環境において、高品質で信頼性の高い製品開発に積極的に取り組み、パチンコ周辺機器及びアミューズメント関連機器などの製品で社会に大きく貢献してまいりました。

さて、当社グループの主力事業であるパチンコ周辺機器業界においては、低貸玉営業(いわゆる「1円パチンコ」)の普及によるパチンコファン層の拡大、パチスロ人気の急速な回復に伴う新製品の相次ぐ投入等により、遊技人口とパチンコホール数の減少は一段落した感があるものの、マーケットが縮小均衡する中で熾烈な競争が常態化しており、市場動向は引き続き極めて流動的です。

このような状況の下、まずマーケティングにおいては、OEM製品及び紙幣搬送システム等のOEMビジネスにおける顧客との連携強化に加え、紙幣識別機、小型券売機等の自社ブランド製品の本格的かつタイムリーな市場展開、新規顧客の開拓など、M&A効果の定着も含め事業の多極化と市場の深耕に引き続き粘り強く取り組んでおります。また、研究開発では、紙幣識別機等の当社の独自技術による開発の本格化を受け、人材の確保・育成を基盤とする開発体制の整備・強化をさらに進めることで、自社ブランド製品における新機種種の継続的かつスピーディーな開発、リーダー／ライター技術の幅広い実用化などを推進し、製品ラインナップの充実を柱として市場競争力の強化を図っております。

製造部門につきましても、完全子会社であるマミヤ・オーピー・ネクス(株)を電子機器事業における生産拠点として再編成することで高度な専門性と技術力を集約し、OEM製品に特有な短納期への強いニーズを満足させつつ品質のさらなる向上に努めると共に、経営資源の効率的運用の一環として、主力製品の安定的な生産・供給と東西2拠点体制構築による事業継続に係るリスク管理を図り、昨年11月に子会社とした総合ゴルフ用品メーカーであるキャスコ(株)の志度工場(香川県さぬき市)において、本年10月よりOEM製品の生産を開始しております。



■ 本社



■ 技術開発センター



■ マミヤ・オーピー・ネクス(株)



調整・検査ライン



OEM製品



Operal 小型券売機



MB100 小型紙幣識別機



メダルホッパー

スポーツ事業部門一 総合ゴルフ用品メーカーとしてのグローバルマーケティングの展開

スポーツ事業部門において当社グループは、昭和48年に国産初のカーボンシャフトを発売して以来、常に時代の先端を走る技術による、お客様の視点を大切にされた製品の開発に努め、世界初の四軸織物を搭載した「AXIV」シリーズ、世界のトッププレーヤー達に愛された「Proforce V2」、そしてグローバルブランド第一弾である「ATTAS」といった数多くのヒット商品をマーケットに送り出せてまいりました。

しかし当社グループは、このような輝かしい歴史を背景としつつ、部材であるカーボンシャフトに特化した従来の事業構造から脱却し製品ラインナップ拡大による事業基盤強化を図るべく、総合ゴルフ用品メーカーであるキャスコ(株)を連結子会社にするると共に、USTMamiya統括部が所管する日本国内におけるゴルフシャフトの開発及び販売等に関する事業を売却することで、キャスコ(株)を中核とした完成品主体のゴルフ用品メーカーとして、新たな一歩を印すこととなりました。

さて、当社グループにおけるスポーツ事業の今後を担うべきキャスコ(株)は、創業以来のこだわりを貫いた良品完成の「ものづくり」の精神を守りつつ、「楽しいゴルフ」を創造し続けてまいりました。

国内においては、自社工場ゆえの機動的な企画・製造並びに業界屈指の販売チャネル数を武器として、KascoそしてWilsonを中心として多ブランドを展開すると共に、ボール・グローブ等、返品リスクの少ない消耗品販売の強化、OEMの戦略的展開など

による収益の底上げと安定化を図っております。グローブでは、創業以来磨きぬかれた品質を訴求し、ボールではフラッグシップのKLENOTをはじめとするKIRAシリーズのラインナップ充実と認知度アップ、バッグ及び用品ではキャスコブランドに加え、ファッション性の高いライセンスブランドの展開に取り組んでおります。

一方海外においては、タイ・韓国、そして代理店との強固な信頼関係を構築した台湾・中国・香港の中華圏を中心に、大手販売店との取引拡大や直営店、派遣販売員による販売網を充実させる取り組みを進めております。

当社グループのスポーツ事業部門は、グローバルな構想の下で国内外における拠点間の連携を一層強化し、トッププレーヤー達に信頼されると共に、全てのゴルファーを魅了する製品をマーケットに供給し続けることで、持続的な成長を実現してまいります。



キャスコ ヘキサロック



3Dベルフォース



ユナイテッドスポーツテクノロジー・LP.



マミヤ・オービー(バングラデシュ)Ltd.



マミヤ・オービー(バングラデシュ)Ltd.



■ キャスコ(株)

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により生産活動の水準が低下し、失業率が依然として高水準にあるなど厳しい状況の中で幕を開け、緩やかなデフレ状況が続いているなか、急速な円高の進行等による景気の下振れによる企業収益の低迷、雇用情勢の持ち直しの動きに足踏みがみられるなど、依然として厳しい状況が続いております。しかし、終盤にかけて生産水準に上向きの兆しがみられ、また、個人消費も上向きに推移するなど、景気に持ち直しの動きがみられる中で推移しました。

このような経済環境の下で当社グループは、M&A及び組織再編の手法による一連の戦略的事業再構築を通じて経営資源の選択と集中並びに事業領域の拡大を推進し、健全かつ強固な経営基盤と、持続的成長を可能とする多極的な事業構造を着実に構築しつつあります。このため、主力である遊技機関連機器事業においては、主力のOEM製品の強化に取り組み、より安定した収益基盤の確立に努めると共に、自社ブランド製品である紙幣識別機のバリエーション増加及びこれを搭載した新製品、新型券売機の開発、人材確保・育成を行う等、開発体制を強化しております。また、災害発生時における事業継続リスクを一定程度回避し、生産・供給の安定性をより高めるべく、本年10月より子会社であるキャスコ(株)志度工場において、OEM製品の生産を行っております。

一方、スポーツ事業におきましては、内外の主要市場における消費者心理の冷え込みが続いていることに加え、東日本大震災による悪影響もあり厳しい状況が続いているものの、利益率の高いカタクロシャフト「ATTASシリーズ」及び遮断桿の売上が増加すると共に、キャスコ(株)の業績も順調に推移する等、持ち直しの兆しがみられております。また、子会社である(株)シャフトラボを売却することによりキャスコ(株)に経営資源を集中し、総合ゴルフ用品メーカーとしての事業基盤を確立し、さらなる成長を目指しております。

この結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は106億33百万円（前年同期比16.1%増）、営業利益は12億48百万円（前年同期比12.4%増）、経常利益は11億19百万円（前年同期比9.5%増）、四半期純利益は9億87百万円（前年同期比8.2%増）となりました。

— 電子機器事業部門 —

電子機器事業部門は、東日本大震災の影響により、当社OEM製品のエンドユーザーであるパチンコホールにおける広告自粛、輪番休業、営業時間短縮等による経営状態悪化と設備投資意欲減退に対する懸念等から販売の苦戦が見込まれたなか、OEMの新製品が第1四半期に引き続き好調に推移すると共に、パチスロの新製品が各メーカーから発売された影響もありメダル貸機の販売数が増加するなどしたものの、前年同期と比較して減収となりました。

この結果、電子機器事業部門の売上高は76億31百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益は10億94百万円（前年同期比0.0%増）となりました。

— スポーツ事業部門 —

スポーツ事業部門は、東日本大震災の影響により、国内のゴルフ場来場者数及びゴルフ場収益が共に減少傾向にあり、また、内外の主要市場における消費も減退し、単価の下落も顕著になっております。

このような事業環境の下で、子会社であるキャスコ(株)の業績は、厳しい状況が続いているものの持ち直しの兆しがあり、KIRAシリーズボールの「KIRAクレノ」、盛夏商品（ポロシャツ、ネッククーラー、クーリングタオル）、新規導入したクラブのD-MAX ARシリーズの売上が順調に推移し、前年同期と比較して増収増益となりました。

この結果、スポーツ事業部門の売上高は30億2百万円（前年同期比147.9%増）、営業利益は1億53百万円（前年同期比844.3%増）となりました。



Consolidated Financial Statements

四半期連結
財務諸表

四半期連結貸借対照表（要旨）

単位：百万円

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前会計年度末
	平成23年9月30日現在	平成22年9月30日現在	平成23年3月31日現在
● 資産の部			
流動資産	13,478	11,889	13,504
固定資産	6,352	2,810	5,704
有形固定資産	1,342	366	1,614
無形固定資産	1,813	667	1,889
投資その他の資産	3,196	1,776	2,200
資産合計	19,830	14,699	19,208
● 負債の部			
流動負債	6,313	5,008	5,966
固定負債	4,200	1,856	4,692
負債合計	10,513	6,865	10,658
● 純資産の部			
株主資本	9,033	7,689	8,313
資本金	3,958	3,958	3,958
利益剰余金	5,107	3,762	4,387
自己株式	△ 32	△ 31	△ 32
その他の包括利益累計額	224	145	161
新株予約権	14	—	—
少数株主持分	44	—	74
純資産合計	9,317	7,834	8,549
負債純資産合計	19,830	14,699	19,208

四半期連結損益計算書（要旨）

単位：百万円

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前会計年度
	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
売上高	10,633	9,155	18,503
売上総利益	3,741	2,819	5,984
営業利益	1,248	1,110	1,968
経常利益	1,119	1,022	1,711
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,116	1,001	1,647
四半期(当期)純利益	987	912	1,538

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

単位：百万円

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前会計年度
	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,208	1,076	2,237
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 642	△ 605	△ 2,366
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 237	△ 238	726
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 4	△ 12	△ 37
現金及び現金同等物の増減額	325	220	560
現金及び現金同等物の期首残高	6,430	5,870	5,870
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 15	—	—
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	6,740	6,090	6,430

会社概要

平成23年9月30日現在

商号 マミヤ・オーピー株式会社
本店所在地 東京都品川区西五反田二丁目11番17号
設立 1948(昭和23)年2月
資本金 39億58百万円

役員

代表取締役社長	矢崎 登	取締役	菅原 正巳
取締役副社長	島田 和長	取締役	峰島 重雄
常務取締役	山本 和孝	取締役	磯部 圭一
常務取締役	鈴木 聡	常勤監査役	吉野 利彦
常務取締役	高橋 浩二	監査役	河手 悦夫
取締役	鈴木 登	監査役	関口 正夫
		監査役	渡邊 光治

主要なグループ会社

マミヤ・オーピー・ネコス株式会社(埼玉県さいたま市)
エフ・エス株式会社(東京都品川区)
キャスコ株式会社(香川県さぬき市)
ユナイテッドスポーツテクノロジーズ・ホールディングスInc.
(米国・デラウェア州)
ユナイテッドスポーツテクノロジーズ・LP.(米国・テキサス州)
マミヤ・オーピー(パングラデシュ) Ltd.(パングラデシュ・チッタゴン)

事業所および事業内容

本社 〒141-0031 東京都品川区西五反田二丁目11番17号 HI五反田ビル
管理本部(総務部・経理部・秘書室)監査室:
Tel 03-5437-2311(代表) Fax 03-5437-2363
電子機器統括部(営業部門):
Tel 03-5437-2573(代表) Fax 03-5437-2473
事業開発室:
Tel 03-5437-2620 Fax 03-5437-2472

技術開発センター 〒141-0031 東京都品川区西五反田一丁目23番9号 りそな五反田ビル
電子機器統括部(開発部門):
Tel 03-5759-2660(代表) Fax 03-5759-2770

上野事業所 〒110-0015 東京都台東区東上野二丁目24番1号 トータテ上野ビル
スキャロボ統括部:
Tel 03-6240-1420 Fax 03-6240-1419

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
剰余金の配当基準日 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

単元株式数 1,000株
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

お問い合わせ先

	証券会社に 口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社に なります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル) みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
お取扱店		

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)
ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式情報

平成23年9月30日現在

株式の状況 発行可能株式総数 …………… 150,000,000株
発行済株式の総数 …………… 93,481,700株
株主総数 …………… 7,603名

大株主

株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
株式会社データ・アート	53,595	57.33
東京海上日動火災保険株式会社	846	0.90
エヌティーシーアカウンティングサービス株式会社	701	0.74
PENSON FINANCIAL SERVICE S.(SEG)ING 1007740 (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部)	691	0.73
日本証券金融株式会社	617	0.66
野村証券株式会社	567	0.60
樋口良平	429	0.45
王厚龍	340	0.36
小林順子	290	0.31
CBNY-DFA INVESTMENT TRUST COMPANY- JAPANESE SMALL COMPANY SERIES (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	285	0.30

Mamiya-OP Co.,Ltd.

マミヤ・オーピー株式会社

東京都品川区西五反田二丁目11番17号

<http://www.mamiya-op.co.jp/>